

巻 頭 言



大分県知事 広瀬 勝貞

海外に開かれた飛躍する大分県を目指して

昨年4月に発生した熊本地震から1年半が経過しました。本県では、特に観光産業が大きな被害を受けましたが、海外から多くの観光客の皆さんに訪れていただいたこともあり、おかげさまで宿泊客数はV字回復を達成することができました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

本県では、外国人観光客とのコミュニケーションを支援するため、14カ国語に24時間365日対応する「おんせん県おおいた多言語コールセンター」を設置し、常時きめ細かなサポートを行っています。また、熊本地震での経験をもとに、災害対策本部に「災害時多言語情報センター」と「外国人支援班」を設置し、大規模災害が発生した際には、外国人にとって必要な情報提供と避難所等での支援を行うこととしています。

大分県を海外に売り出していくにあたり、2つの強みがあります。ひとつは約90の国や地域から3,500名を超える留学生が本県で学んでいることです。この数は、人口当たりになおすと全国トップクラスです。さらに、この強みを生かすため、昨年10月、別府市に県内での起業や就業を目指す留学生をサポートする「おおいた留学生ビジネスセンター」を開設しました。留学生は母国と大分の架け橋となってくれる貴重な人材です。県としても彼らが卒業後も大分で活躍してもらえるよう、必要な支援を行っていきたいと考えています。

そして、もうひとつの強みは、何といても温泉です。「おんせん県おおいた」の看板のとおり、温泉の源泉数や湧出量はともに日本一です。来年5月には、世界各国の温泉地の代表が参加する「世界温泉地サミット」を開催する予定です。サミットでは、観光、健康・美容、エネルギーなど様々な観点から温泉の活用と地域発展の可能性について議論します。

こうした本県の2つの強みを軸に、海外とのネットワークをより強固にして、海外からの活力を取り込むことにより、少子高齢化、人口減少などの課題克服に取り組んでいきます。これから予定されている、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどを契機として、観光等の産業をはじめ、芸術・文化、スポーツ、教育など各種分野における交流をさらに促進し、海外に開かれた飛躍する大分県の実現を目指していきます。